

行事予定

オンライン忘年会を企画中

本号内容

在ミュンヘン日本国総領事館 新総領事挨拶

連載 走る その3 マクエルフレッシュ瑠璃子

インタビュー特集 シュトゥットガルトで活躍する5人

Foto by Japanclub Stuttgart

10

しゅとつとがると  
しゅとつとがると

令和2年 176号 2020年10月15日発行

シュトゥットガルト日本人会会報

在ミュンヘン日本国総領館

前川新総領事 ご挨拶

---



この度、在ミュンヘン日本国総領事として着任しました前川信隆と申します。今回が3度目のドイツ勤務となります。バーデン＝ヴュルテンベルク州にはこれまで出張や旅行、短期間の滞在などの機会がありました。

当地は在留邦人の数が5000名を超え、シュトゥットガルト日本人会におかれては日本企業関係者、研究者、芸術家、建築家、ドイツ人とご結婚された方など、様々な方々が幅広い活動に取り組まれていると承知します。今年に入ってから、新型コロナウイルスの感染拡大以降、様々な行事の実施が困難な状況が続いていますが、来年の日独交流160周年をぜひとも実りある機会にするとともに、シュトゥットガルト日本人会の皆様と協力し、当地の日本人コミュニティの発展に鋭意取り組んで参りたいと思います。

他の地域同様、バーデン＝ヴュルテンベルク州においても、新型コロナウイルス対策による各種制限措置等により、厳しい環境の中での生活が続くと承知しますが、総領事館として迅速な情報提供や領事サービスの向上を通じて、在留邦人の皆さまのお役に立てるよう、一層努力して参りたいと思います。お困りのことやお気づきの点などありましたら、いつでも当館窓口までご相談頂ければ幸いです。

今後とも、総領事館に対する皆様のご理解とご協力を宜しくお願い申し上げます。

自分が料理を始めたきっかけは16歳、高校生のとき居酒屋でバイトしたからです。何も考えずに厨房の仕事を経験して面白く感じました。その後名古屋の大学でグラフィックデザインを勉強し、その方向で就職しました。しかしクライアントの要望で自分の提案したデザインがどんどん修正を加えられ、最後は自分のものでなくなるようなデザイン会社での仕事にちょっと失望し、自分が作ったものをすぐ提供できるという意味では、料理作りの方が良いかもしれないと思いました。それで料理人としての転職が始まります。自然が好きだからそんな環境で働きたいと、趣味的なスタートで、長野県の山小屋、南伊豆、沖縄と自然を楽しみながら働きました。それぞれの土地の料理よりもその土地特有の食材を知ったことが強く印象に

残っています。今でもその土地で取れる食材を生かしたいと意識しています。例えば Stuttgart で日本料理を作るときに、日本食の材料を日本から輸入するのではなく、この土地の産物を使いたいという意識です。

▶ ドイツへやってきたきっかけは？

沖縄で出会った同じ料理人出稼ぎ若者の一人が、Stuttgart のレストランとコンタクトをしていました。自分も一度は外国に行きたいな、と付いてきてしまいました。26歳の時です。ドイツに来てすぐ仕事が始まるというラッキーなスタートです。喜長で6年働きました。まず習ったことはドイツ人が美味しいと思う味は何かということです。

▶ 日本料理の店以外でも仕事されたね？

喜長で働きながら、自分はいずれ日本

に帰って仕事するはずだと、漠然と未来を考えていましたから、そのためにはドイツのものも学んでおきたいと、喜長が休みの日に家の近くで見つけた Weinstenge というホテルレストランで見習いのようなことをしながら、Stuttgart 近辺のミシュラン星付きレストラン十数件に就職希望を送りつけました。喜長にいる間ドイツ語の必要が無かったので、ドイツ語力ゼロ、先方のレストランで僕を必要とする要素ゼロの就職活動でした。ところが1年後、あるレストランから就職OKの返事が来たのです。Wielandshöhe (ヴィーランドヒューエ) というドイツ・南仏料理のレストランです。32歳で始めたそこでの3年間の修業は、一日15時間の労働、周りは上も下も自分より年下という状況でプライドをどんどん失

いながらも、コックの姿勢というものを認識させられました。このレストランでは有機野菜を使い、肉の入手も牛を丸ター頭買ってしまうなど、食材を十分考慮していましたが、皿に盛りつけるところではあまり遊ばない、飾らない。そこでかつて就職希望を送った中で、第一希望だったシュトゥットガルト空港内にある Top air (トップエア) にもう一度アタックしてみました。このレストランの料理は見ただけでは、いったいどんな食材が使われているのかわからないのです。

▶ Top air、興味深いレストランですね  
幸運にも2度目にチャンスをいただき、トップエアで働けるようになりました。ヴィーランドで耳で覚えたドイツ語が助けてくれました。この厨房での仕事はまるで化学実験室にいるようでした。料理の実験が出来るのです。

どんなことをするかというと、例えば最終目的が盛りつけた際の立体感のためだとして。そのために豆腐を丸くしたい、そのためにはゼラチンとにが

りの分量、バランスをどこで保つか・・・といったようなことを、やらせてもらえるのです。

それからさらに飛び込みで修業させてもらったのはデュッセルドルフの長屋です。評判を聞いて食べに行って、この味!!と、もう失礼を承知で1週間だけ厨房にいさせてもらいました。料理長であり店の経営者でもある長屋さ



んは徹底してドイツ人のために料理人の腕を発揮している。その後姿を拝見しました。またスタッフとのやり取りが上手でしたし、レストランを経営するための心構えのような話も聞かせていただきました。

▶ 今さらに新たな展開へ向かわれていきますね

トップエアで仕事をしているときに子供が生まれ、この職場では育児休暇を取れないと知って、退職しました。僕の奥さんもピアニストとして仕事を持っているので、二人で協力して子育てしたかったからです。そして、いよいよ自分の店を持つと準備を始めました。現在店内の改装から機材の手配、営業許可申請など親子三人で頑張っています。目指すのは Bei den Stein のようなレストランです。シェフとその奥さんがサービス、時々娘さんが手伝っている家族経営のとても温かな雰囲気のお店で、料理もおいしいです。

僕のレストランは NAGARE です。

日本で生まれ、2歳半でドイツにやってきました。フィルダーシュタットの家の向かいに幼稚園があり、親は迷うことなくそこに私を通わせました。市営幼稚園でしたがヴァルドルフ幼稚園の保育士資格を持つ人がいたので、コンセプトがちょっとシュタイナー系でした。その幼稚園でヴァルドルフシュレの存在を紹介され、やはり親は迷うことなくそこへ兄と私を入学させました。入学後12年間同じクラスメートと過ごしたのですが、そのクラスは学校中でうわさされるほど酷いクラスでした。とにかく授業態度が悪い。私のような日本人の子は静かですごく良い子として見られました。態度が悪いというのは、いわゆるドイツ的なというか、日本の学

校とは大違いの授業中の発言で、先生が教えることにことごとく反論を展開するか聞こうとしないかです。私は普通学校にいても同じだろうと思って、12年間過ごしました。もっと静かにきちんと学びたかったとも、今は思いません。

卒業を前に、幼稚園で働くことを決めていました。その頃には人間と接することがあまり好きじゃない自分を感じていたのですが、それはやはりクラスメートの裏表のある態度をみてきたから人間不信になったのかもしれませんが。子供と接するときは楽しかったので、それを仕事にしたかった。初め親には反対されました。特に母親は私を音楽の道に進ませたかったようです。ヴァル



ドルフの12年間、放課後はずっとピアノの練習があって、友達と遊ぶこともありませんでした。自分の事を自分で決めても良いという18歳になって、私は自分のやりたいことを宣言しました。

#### ▶ ヴァルドルフ幼稚園の保育士を目指してどんな勉強をしましたか？

まずヴァルドルフの教育者養成学校で3年間保育士の勉強をしました。1年目は6週間入れ替わりで、学校の授業と、幼稚園での実習の繰り返しでした。その頃は学校に戻るとほっとする感じでした。2年目は実習期間が長く多くなりました。そうすると学校にいても早く幼稚園に戻りたいと思うようになりました。3年目はほとんどが実習となりこれまでの3歳から6歳までの幼稚園実習の他に、ドイツ語ではKrippe(クリッペ)と呼ばれている1歳～3歳までの託児所(保育所)やHort(ホルト)で既に就学しても放課後に親がいない為引き続き学校にいななければならない子供たち6歳から12歳までの世話も経験しました。学校の授業ではシュタイナー系ですからもちろんオイルトミーがあ

り、芸術、音楽、ドイツ語、英語などの他に興味深かった授業は、きちんと話せるように指導するための会話構成学とか物語分析講座です。物語分析は昔のメルヒェンをそのまま読み聞かせてよいのかの分析です。現在の子供たちは多くの映像を目にしているので、昔は読み飛ばされた表現が、すごく生々しく想像される場合もあるからです。幼稚園などの現場で学んだことは、教えないということです。子供たちは自分でやりたいことを考え、選ぶ能力があるのだから、彼らに任せるという方針です。昨年からは仕事が始まりましたが、私は保育園に勤務しています。ヴァルドルフは元来この保育園を待たない方針でした。人間形成に大事な3歳まではしっかり親が付き添うべきという考えです。私も親になったらそうしたいですが、現在の社会状況では幼児を預けて仕事したい親がとても多く、勤務する幼稚園でも100人以上の幼児が空き待ちです。親が面倒みないなら私が!ということなのでその年齢の子どもと過ごすことに意義を感じています。保育児は幼稚園児と

違って一人で遊ぶことは出来ませんが、大人と一緒に何かやりたいという気持ちは十分あります。私がテーブルを拭いていると一緒に拭きたがる、やらせると5分ぐらいずっとやっている。もちろんとんでもない拭き方です。家では幼児にこの5分の時間をあげることが少ないのではなんでしょうか。

この仕事をするようになって、親と子で考えるとき、親に願う事はもっと子供向き合ってほしいのと、子供に時間をあげてほしいということです。本当は子供には嫌いなことがあまりないのです。雨だって平気ですが、親は雨が嫌い、雨の中で何かをしたがらない、それを見ているうちにいつの間にか雨の嫌いな子になっていきます。

子供が親のいうことを聞く必要もあります。しかし親が子供に何を要求したいのか、一度考えてほしいです。

趣味はKポップ 休日は夜更かしして日本のドラマを観ています。